

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	京都市立嘉楽中学校 第2学年（男子27名 女子32名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (人権学習) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	障がいのある人と共に生きていくために、私たちに何ができるか考える。また、柳本あまねさんの講演・車いすバスケの体験の中で、選手のみなさんの力強い生き方に触れ、目標を実現するために、希望と勇気を持って、粘り強くやり抜く強い意志をもって行動しようとする意欲を高める。
5 取組内容	1 事前学習 「東京タイマー2020」（朝日放送）を鑑賞し 手記「夢があるから頑張れる」を読み「共生」について考える。 2 車いすバスケットボール体験 柳本 あまねさん 北間 優衣さん 北田 千尋さん（チームカクテルより） ・選手紹介・競技説明・模範演技 ・車いす体験・クラス対抗試合 ・選手代表の体験談・質疑応答 3 事後学習 ・体験を通して「共生社会の実現に向けた日本の課題」について考え意見交流を行った。
6 主な成果	初めて出会うことに対して、消極的な傾向がある生徒が多いが、事前学習を通して、理解を徐々に深めることで、当日の体験を良いものにできた。選手の方とこちらの打合せを行い、体験がうまくすすむように配慮できた。また、事後学習のようすから、共生社会の実現に向けて自分たちができることを考えることができる機会となった。 （生徒の感想より） ・車いすの扱いが難しく、思うように動くことができなかった。

- 選手の皆さんが明るく楽しい雰囲気で行ってくれたので、おおいに盛り上がり、素晴らしい体験を行うことができました
- 質疑応答の時間では、さまざまな質問に答えくださり、「ユニバーサルデザイン」についての質問で、私たちの認識がまだまだ薄いんだなと感じました。
- 選手の方々の意識の高さに驚きました。
- シュートが難しかったが、楽しく試合を行うことができました。
- 実際に来てもらってプレーすることがとても良い経験になりました。



<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 事前学習により車いすバスケットの知識や理解を深め、「共生」について考えた。 • 全生徒が体験できるように当日の予定を選手の皆さんと考えた。 • 事後学習では体験をふまえることで、共生社会で自分たちができることについて学習を深めることができた。
<p>8主な課題等</p>	<p>学校設備（スロープ、トイレの整備）</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>検討中</p>